ジャンボ宝くじ助成事業
財団法人地域創造助成事業

The Man who Laughs

七十年ぶりに甦る幻の名作

世界の名画を見る会 第10回記念
（企画・構成 高野悦子）

無　声　映　画（フランス八重奏団生演奏）

笑う男

（日本語字幕スーパー）

舞台挨拶　ピエール＝アンリ・ドロー
　　高野悦子
指　　揮　ガブリエル・ティボードー
演　　奏　フランス八重奏団
　　ダヴィット・ブラスフスキー

'99 4月27日（火）

開場18：00　開演19：00

黒部市国際文化センター **コラーレ（カーターホール）**

入場料／2,000円（全席自由）
当日2,300円

この公演は、財団法人地域創造並びにジャンボ宝くじの売上金から助成を受けて実施するものです。

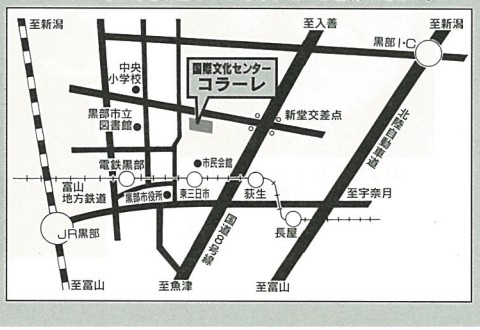
主催 財団法人黒部市国際文化センター　共催 北日本放送　後援 黒部市・黒部市教育委員会

■お問い合せ
財団法人黒部市国際文化センター
TEL(0765)57-1201　FAX(0765)57-1207

■プレイガイド

黒部	コラーレ	(0765)57-1201
	メルシー	(0765)54-2221
	ロイヤルバリー黒部	(0765)54-1000
魚津	新川文化ホール	(0765)23-1123
	魚津サンプラザ	(0765)24-3030
入善	コスモホール	(0765)72-1105
	コスモ21	(0765)74-9100
宇奈月	宇奈月国際会館	(0765)62-2000
朝日	アスカ	(0765)82-2000
富山	インフォマート	
	[市民プラザ]	(0764)91-0110
	[CiC駅前店]	(0764)44-7013
	北日本新聞社	(0764)45-3300
	富山県民会館	(0764)32-3111
	富山映画サークル	(0764)32-3931

※5歳未満のお子さまの入場はご遠慮願います。
一時保育を希望される方は事前にご連絡ください。



笑う男 The Man who Laughs

スタッフ
製作：ユニバーサル（カール・ラエメル）
監督：パウル・レニ
脚色：グラブ・アレキサンダー
（ヴィクトル・ユーゴーの小説より）
撮影監督：ギルバート・ワレントン

キャスト
グゥインプラン：コンラッド・ヴィエット
ディ：メリー・フィルビン
グゥインプランの少年時代：イュリウス・モルナー2世
ジョシアン女公爵：オルガ・バクラノヴァ
バーキルフェドロ：ブランドン・ハースト
ウルスス：シーザー・グラヴィナ
デリーモア卿：スチュアート・ホームズ
ワペンタケ：ニック・デ・ルイーズ
大法官：エドガー・ノートン
スパイ：フェルペン・メヤー
ハルクォノン博士：ジョージ・シーグマン
アン王女：ジョセフィン・クロヴァル
（アメリカ／モノクロ／1928年／110分）

ごあいさつ

無声映画時代の幻の名作「笑う男」（アメリカ映画・1928年作）を現代に甦らせたのは、ピエール＝アンリ・ドロー氏です。ドロー氏はカンヌ国際映画祭“監督週間”の名物ディレクターとして、世界中から沢山の才能ある若い監督を発掘しました。そして、その作品を監督週間で上映することによって、彼らを世に送り出したのです。

1998年5月、発足30年を迎えた監督週間のオープニングで披露され、大成功を収めたのが「笑う男」でした。本来はアメリカ映画ですが、イタリア、フランス、イギリスのフィルム・アーカイブが協力して完全に復元し、伴奏音楽はカナダの作曲家が担当しました。

カンヌでの上映後「笑う男」は欧米各地で人々の賞讃のうちに上映がつづけられています。今回、ドロー氏のご尽力で第10回世界の名画を見る会での特別上映が実現したことを、私は本当にうれしく思っております。

国立フィルムセンター名誉館長・岩波ホール総支配人
高野悦子

ピエール＝アンリ・ドロー

作品について

「笑う男」の監督〈パウル・レニ〉は、無声映画芸術が成熟した1920年代に、表現派映画の秀作「裏町の怪老窟」(24)を完成させた。これが注目されてアメリカのユニヴァーサル社に招かれ、1928年に「笑う男」を作るが、翌年病死した。もしレニがもっと長生きしていたら、必ずや大監督として活躍したであろうと、その早すぎた死をおしむ声が今も多い。

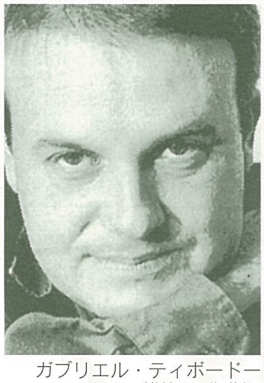
「笑う男」は、フランスの文豪ヴィクトル・ユーゴーが1869年に発表した同名小説の映画化で、ドイツ表現派映画の代表作「カリガリ博士」(19)や、「裏町の怪老窟」に主演した特異な風貌の性格俳優コンラート・ファイトと、「オペラの怪人」(25)などに主演した美人女優メアリ・フィルビンが主演している。17世紀の英国を舞台に、政敵に父を殺され、自らも常に作り笑いを浮かべた顔にされてしまった貴族の息子がたどる波乱万丈の半生を描く。それは手に汗にぎる活劇であり、心をゆさぶる愛のロマンである。

伴奏音楽について

今回「笑う男」が上映される際に演奏される伴奏音楽は、カナダの作曲家ガブリエル・ティボードーが、この映画のために作曲したオリジナル作品である。ティボードーはカナダのシネマテーク・ケベユワーズ専属のピアニストで、これまでにも数多くの無声映画用伴奏音楽を作曲している。

ティボードーの指揮のもとで演奏するのはフランス八重奏団である。クラリネット奏者ジャン＝ルイ・サジョの提唱によって1975年に結成され、1995年からフランス八重奏団と名のるこの楽団は、第一ヴァイオリン、第二ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、ファゴット、クラリネット、ホルン奏者で構成され、これに今回はピアノが加わる。

ティボードーは各人の音質をよく研究し、「笑う男」に最適の音楽を作曲した。「笑う男」上映会の世界各地での成功は、映画作品と伴奏音楽との一体感にある。この演奏はCDにもなって好評を博している。



ガブリエル・ティボードー
（指揮・作曲）

フランス八重奏団

ダヴィット・ブラスラフスキー
（ピアノ）